

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

個別事業等に関連した実践的・試行的な活動の内容・結果等

(1) にぎわいの創出に関連した活動

① 道路空間の有効活用社会実験（国土交通省）

平成16年10月、12月に玉宮通りで、国土交通省の支援による道路空間活用（オープンカフェ等）の社会実験を行ったが、歩行者通行量は平常時より50%程度増加した。

また、来街者に対するアンケート調査では、“オープンカフェ”は45.4%、“フリーマーケット”は36.3%、“ワゴンセール”は29.1%の人が良かったと評価し、こうした取組みによる道路空間の活用をもっと広げるほうが良いかという問いには、80.6%の人が“もっと増えてほしい”と答えた。

この社会実験から、商店街のモール化とにぎわいの仕掛けづくりにより商店街の集客性が向上することが実証され、その後、信長まつり時等定期的に道路空間活用を実施している。

玉宮通り商店街によるこうした継続的な取組みが評価され、平成18年、中小企業庁より、「がんばる商店街77選」の一つに選定された。

今後、さらにまちの魅力に磨きをかけ、集客性を高めるとともに、美しいまちづくり景観を創出するため、無電柱化事業を実施することとし、基本計画に位置づける。

【玉宮通りオープンカフェ等の社会実験における歩行者通行量の変化】

開催月日	曜日	調査ポイント1		調査ポイント2	
		歩行者通行量	歩行者通行量平均割合	歩行者通行量	歩行者通行量平均割合
実験前	9月18日	1,901		2,241	
	9月19日	2,260		2,618	
	計	4,161		4,859	
	平均	2,081	1.00	2,430	1.00
実験中	10月2日	4,083		3,895	
	10月3日	3,619		4,041	
	10月10日	2,811		3,017	
	10月16日	3,123		3,444	
	計	13,636		14,397	
	平均	3,409	1.64	3,599	1.48

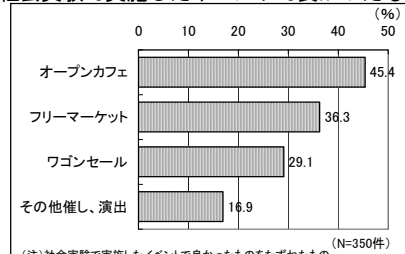
(注1)実施年月：平成16年10月

(注2)調査時間：10時～17時

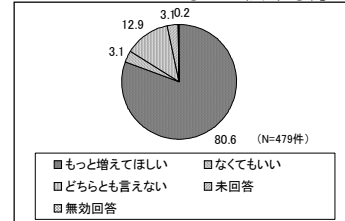
(注3)実験内容：オープンカフェ、イベント、ワゴンセール、フリーマーケット

資料：岐阜市「光と緑あふれる歩行者空間創出実験（平成16年）」

【社会実験で実施したイベントで良かったもの】



【オープンカフェ等による道路空間の活用をもっと広げる方がいいか】



【「がんばる商店街77選」の掲載内容】

街並み整備とイベント開催で商店街の再生

① ここがポイント

商店街を中心とした地域住民がまちづくり組織を結成し、まちづくり協定の締結と街並み整備の推進、オープンカフェ等の実践的なイベントを開催。

- 事業実施の経緯
 1. まちづくり協定の締結と街並み整備の推進
 - ・まちづくり協定の締結（街並み整備のルール化）による継続的な集客力向上の機運の醸成（1.5kmのセットバック、歩道下掘削の協賛等）
 2. 事業の展開と経過
 - ・まちづくり協定の締結と街並み整備の推進
 - ・協定の締結もともなう機運の醸成が生み出され、それとともなう多種多様なアプローチや協賛が実現した。

岐阜卓桌

玉宮通りの商店街

所在地：岐阜市
員数：約100名（玉宮まちづくり協議会）
商店街の類型：地域型商店街
関連URL：http://www.city.gifu.jp/gpu/machi_tamao/taisho.htm

玉宮通り商店街

オープンカフェ社会実験

(出典：経済産業省中小企業庁「がんばる商店街77選（平成18年）」)

② レトロをテーマとしたまちの魅力づくり社会実験

柳ヶ瀬は、今もなつかしい昭和の雰囲気の名残りを有することから、その魅力を掘り起こし、それを引き立たせる演出や仕掛けを行うことで、商店街観光をにらんだ“レトロ”をテーマとしたまちの魅力づくりが進められている。

商店街、自治会、NPO、岐阜市等でプロジェクトチームを編成し、平成18年7月に「柳ヶ瀬レトロギャラリー（1960年代以前の柳ヶ瀬の写真を展示）」社会実験を実施し、来街者から好評を得た。

この結果を踏まえ、チームでは、柳ヶ瀬の昔なつかしい写真をまちなかの店先に展示する「柳ヶ瀬まちなか写真館」を継続実施している。

【柳ヶ瀬レトロギャラリー社会実験】



【柳ヶ瀬まちなか写真館の展示イメージ】



- 1 柳ヶ瀬レトロギャラリー（平成18年7月22日～23日開催）
 1960年代までに限定した柳ヶ瀬の写真を展示し、昔の柳ヶ瀬を知っている世代には懐かしさを楽しんでもらい、若い世代には柳ヶ瀬の意外な魅力を楽しんでもらう。
- 観覧者数：約1,100人
 観覧者層：⇒性別（男女半々）
 ⇒年齢（60歳以上53%、50歳代23%）
 ⇒居住地（岐阜市内83%）
 ⇒交通手段（自転車＋徒歩44%）
 ⇒来街頻度（週1回以上64%）
- 来街目的：ギャラリーを見に来た（24%）
 買い物に来た（23%）
- 感想：懐かしかった（38%）
 良かった（26%）
 また見たいと思った（10%）
- その他：23日の中日新聞朝刊に紹介記事が掲載され、「新聞を見て来た」という人が多かった
- 団塊の世代よりやや高め
 柳ヶ瀬近隣の居住者が半数程度と推定される

③ 中心市街地魅力づくり事業

レトロをテーマとしたまちの魅力づくり社会実験が好評を博したことから、岐阜の思い出や文化が濃密に溶け込んでいる中心市街地を楽しんでもらう「中心市街地魅力づくり事業」を平成18年度から展開する。平成18年度は、「岐阜まち物語」と題したまちなか観光事業を実施する。



- 主な内容
- ・講演「花子と貞奴」、公演「小さい花子の物語」
 - ・「川端康成・松尾芭蕉」展示
 - ・古賀政男 影を慕いて レコード会
 - ・岐阜懐かしのフィルム上映
 - ・鶯谷高校音楽科演奏会、加納高校音楽科演奏会
 - ・インターナショナル・タウンウォッチング
 - ・ぎふ三十六景@バレンタイン 企画：ぎふ女子高生フォーラム
 - ・文学ライブ 「映画の中のふるさと」
 - ・岐阜街なかお宝探し
 - ・岐阜芸妓検番公開
 - ・わがまち探検マップコンクール
 - ・柳ヶ瀬まちなか写真館 ほか

④ 岐阜市内の観光案内などに電波ポスターを導入「ITを活用したまちづくり実証実験」

国土交通省、岐阜県、岐阜市などで構成する「ITを活用したまちづくり実証

実験実行委員会」は、平成 17 年 8 月から 10 月まで、岐阜市内の岐阜駅周辺から岐阜公園周辺の地域で、市民や観光客などに電波ポスターを利用して観光施設や飲食店等を案内する実証実験を実施した。

さらに、平成 18 年 9 月から、国・県との共同による QR コードを活用した観光情報や市民生活情報を提供する実験を行った。携帯電話等を活用して、まちの魅力ある情報を提供することで、地域住民や観光客によるまちの再発見やまちなか回遊を促進し、にぎわいの創出や個性的なまちづくりの契機とし、中心市街地の活性化や観光振興を図った。

その結果、QR コードを介したアクセスページは、2 ヶ月で約 36,000 にも及び関心の高さが伺えた。

(2) 公共交通の利便性向上に関連した活動

① 「商店街等活性化買物バス運行事業」社会実験

平成 14 年 9 月 28 日から約 5 ヶ月間、経済産業省の中小商業活性化総合事業、岐阜県の岐阜県商店街等活性化事業、岐阜市の岐阜市中小企業振興補助金等の支援を得て、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会が実施主体となり、商店街等活性化買物バス運行事業を実施した。

中心市街地の活性化を目的として、岐阜駅周辺から柳ヶ瀬、岐阜公園を周辺に無料買い物循環バス（柳バス）を運行した。

利用者の約 97% が買物循環バスに肯定的であり、約 76% の人が、100 円程度なら利用するとのアンケート結果を受け、平成 15 年 4 月から、岐阜乗合自動車株式会社が「柳バス」（ワンコイン 100 円）を継続運行し、利用者数は漸増している。

今後の利用に関する意向

	回答	割合
無料でも利用しない	8	0.9
100円位なら利用	689	75.6
有料なら利用しない	189	20.7
無回答	25	2.7
計	911	100.0

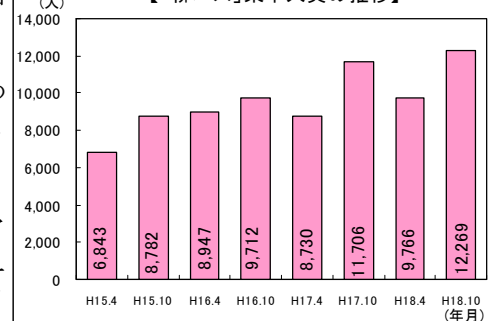
柳バスアンケート結果

	回答	割合
大変良い	816	89.6
プラス面多い	66	7.2
あまり役に立たない	5	0.5
続けても無駄	2	0.2
無回答	22	2.4
計	911	100.0

柳バス利用結果

	9～10月	11月	12月	1月	2月	合計
利用者数	48,683	42,320	39,419	36,382	38,971	205,775
運行日数	34	30	31	29	28	152
1日平均利用者数	1,432	1,411	1,272	1,255	1,392	1,354

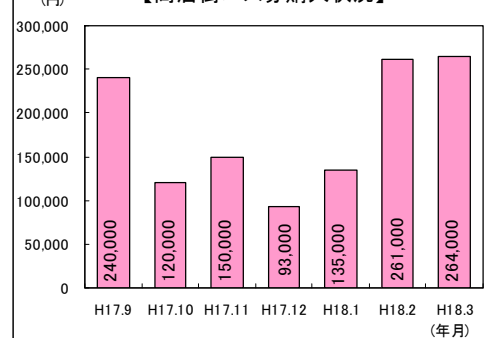
【「柳バス」乗車人員の推移】



② 商店街バス券事業

郊外からバスを利用して商店街を訪れる人に対するサービスとして、岐阜市商店街振興組合連合会、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会、岐阜乗合自動車株式会社が、平成 17 年 10 月、参加店舗で一定金額以上（物販 3,000 円、飲食 2,000 円）の買物・飲食をした来街者に「商店街バス券（200 円券）」の提供を開始した。利用者数は増加傾向にある。

【商店街バス券購入状況】

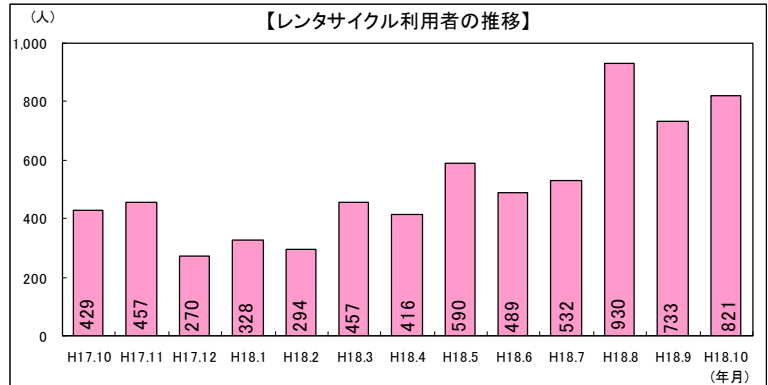
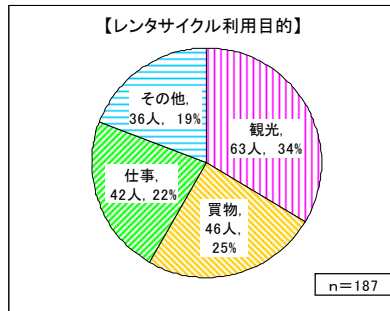


※商店街組合が岐阜バスから購入

(3) その他活動

① レンタサイクル事業

岐阜市は、平成15年に「レンタサイクル社会実験」を行い、好評であったことから、平成17年10月、市内3箇所をステーションとして本格実施を開始した。利用者数は増加傾向にあり、利用目的の約6割が観光と買物であることから、利便性向上が街の活性化に寄与するものと考えられる。事業実施後、さらなる利便性の向上が望まれたことから、平成19年度より、ステーションの増設と自転車を各ステーションに自由に返却することとしている。



② 空き店舗支援事業

柳ヶ瀬地区においては、平成15年度より、空き店舗を活用した起業者支援を行っているが、現在まで4人が独立し、そのうち柳ヶ瀬地区に3人が起業したことから、基本計画においても本事業を位置付ける。

③ ゆとり・やすらぎ道空間事業

平成15年10月から11月にかけて実施した総合型交通社会実験の中の「まちなかゾーン実験」では、都心部において、安心して歩くことができる歩行環境改善に向けての、細道（裏道）への通過交通の流入防止等の実験を行った。

その結果、道路空間としては、歩行者や自転車が利用しやすく、安全な歩行環境整備が求められていることから、「ゆとり・やすらぎ道空間事業」を実施している。

④ 建替え相談システム事業

平成17年度の全国都市再生モデル調査事業において実施した建替え意向調査から、建替えの課題を明らかにし、建替え相談システムを提唱した。

それに基づき、平成18年度において、建替えに関する個別の相談を受けるための相談所を、財団法人岐阜市にぎわいまち公社に先行的に開設した。

平成19年度からは取組み体制を充実させ、弁護士、税理士、建築関係者などの専門家により、様々な相談に対応するとともに、計画のコーディネートを行い、さらには、支援策や、建築制限等の規制の緩和方策の検討など、建替えに係る支援・誘導策と一体化した建替え相談システムとして、建替え推進を強く図ることとしている。

[2] 都市計画との調和等

< P149 参照 >

[3] その他の事項

中心市街地の活性化に向けた取組み等を実施するに当たり配慮する基本的な事項等

民間・地域・行政、さらには国（出先機関）、県、市の一体的取組みによる強力な推進を図るため、全体的な計画の管理や実施体制の整備にも取り組む。

(1) 岐阜県・岐阜市連携推進会議

岐阜県両副知事、岐阜市両助役で構成される、「岐阜県・岐阜市連携推進会議」において、『中心市街地の活性化について』という協議テーマがあり、「中心市街地の活性化（岐阜駅周辺から柳ヶ瀬地区一帯）」、「岐阜駅周辺のまちづくり計画」、「柳ヶ瀬地区活性化」、「名鉄名古屋本線立体交差事業、加納・茶所駅周辺土地区画整理事業」が具体テーマとして掲げられていることから、県との十分な連携を図りつつ取り組んでいく。

(2) 県都岐阜市のまちづくり協議会

「県都岐阜市のまちづくり構想」を作成した「県都岐阜市のまちづくり協議会」の事務局を県と市が共同で担当しており、中心市街地の問題については、共通認識をもっている。

(3) 中心市街地整備推進機構

本市の出資法人の中で、「中心市街地活性化に関する事業」を行うことを定めている「財団法人岐阜市にぎわいまち公社」から、中心市街地整備推進機構の指定の申請があり、平成18年8月11日に指定した。

同公社は、まちづくり活動に関することなども事業として行っているが、中心市街地整備推進機構の指定を受けたことを機に、中心市街地活性化とまちづくりとを融合させ、「商店街情報発信拠点整備事業」等を計画している。